白鷗大学教育学部論集
2024，18(1)，63－85

原著論文

保育実習（施設）における実習プログラムに関する研究

佐　藤　ちひろ[1]・松　倉　佳　子[2]

1　はじめに

保育士養成課程においては保育士資格取得のために、保育所での実習に加え、保育所以外の児童福祉施設等での実習（以下、施設実習）が必要となる。施設実習における実習先としては、児童養護施設や乳児院、障害児の施設といった児童福祉施設に加えて、障害者支援施設などの成人の社会福祉施設も含まれている。こういった施設は、保育実習の実習先のみならず、保育士の働く場所の一つでもある。しかしながら、保育士資格の取得を目指す学生の多くは、保育所等で保育者として働くことを希望して養成校に入学し、実際の就職先も保育所等である場合が圧倒的に多い。厚生労働省の第３回保育士等確保対策検討会（2015）の資料によると、2014年度末に保育士資格を取得したもののうちで、保育所以外の児童福祉施設に就職した者は、大学4.3％、短大3.1％、専修学校5.8％となっており、実際に保育所以外の児童福祉施設に就職する保育士は非常に少ないことがわかる。

しかしながら、そういった現状の中で、大村ら（2020）は、近年の傾向として２回の施設実習を希望する学生が微増していると指摘している。児童福祉施設で働くことを希望する学生が増えているのであろうか。

そもそもなぜ施設実習が保育士の実習として設定されているのであろう

[1]白鷗大学教育学部　[2]こども教育宝仙大学
e-mail：chihiro-sato@fc.hakuoh.ac.jp

か。圓入（2007）は、保育士資格については、もともとは保育所保育士と施設で働く保育士の養成を分けて行うことが想定されていたと述べている。しかしながら紆余曲折の中現在の養成の形になったのである。そういった現状の中でも、大嶋（2009）は、４年制養成の中で各領域の専門性に関する学びを深化させることを意図した専門領域に応じた場での実習を行い養成することが構想されてきたと指摘している。しかしながら現在の養成課程においては一つの「保育士」という資格となっている。このように一つの資格ではあるが、保育所と施設という２つの実習を経験する必要が保育士にはある。

保育実習に関する先行研究を見てみると、同じ保育士養成における実習であっても、保育所実習に関する研究は多く行われてきているが、施設実習に関する研究はそれに比べると少ない。さらには、施設実習は保育実習Ⅰと保育実習Ⅲに分かれており、この保育実習Ⅲに関する研究はかなり少ないと言える。

施設実習では、乳児院、児童養護施設等をはじめとする児童福祉施設に加えて、障害児入所施設、障害者支援施設なども実習先となっており、非常に多種別にわたっている。こういった多くの種別による実習について松藤ら（2016）は、実習先の施設種により、学生の学びや体験に差があることを指摘している。藤田（2023）も同様に、保育実習Ⅰ（施設）および保育実習Ⅲの実習施設は、施設種別が多いためそれぞれの施設での学びの内容に違いがあることを指摘している。

また施設実習の多種別ということについては、石山ら（2010）は、施設種により学生の実習の「自己評価」や「気づき」に相違がみられたと報告している。さらに土谷（2006）によると障害児系の施設とその他とでは実習中の指導内容に差が出ることが指摘されている。施設実習特有の施設種別による違いがいくつかの部分で見られることがわかっている。こういった形で多種別による実習の学び等については違いがあることの指摘がなされている。

多くの種別での実習が実施される施設実習においては、保育所等との実習とは大きく違うため、飯尾ら（2017）は、学生は施設利用者との適切な関わり方がわからないことへの心配といった不安を抱えることが指摘されている。社会的養護の授業等で児童福祉施設等についての講義はあるものの、わからないことへの不安を抱えて施設実習に臨む学生は多い。また、川島（2007）らの調査によると、「施設実習」過程における学生のモチベーションの要因については、「子どもとの関わり」「時間の経過」「実習プログラム」であったとしている。モチベーションを上げる、保つためにも実習プログラムが非常に有効なことがわかる。このように実習プログラムは実習において非常に重要な意味を持っているものの、施設種別による実習プログラムが異なっているという指摘は多く、実習プログラムの共通化や統一化は難しい問題である。実習プログラムについては、漁田（2003）、小島（2013）、杉野（2018）、藤田・村田（2023）が先行研究において取り上げている。

また、施設実習は保育実習Ⅰと選択制の保育実習Ⅲの２回の実習が設定されており、この保育実習Ⅰと保育実習Ⅲで行う実習先種別が異なっている学生が多いことも事実である。大和田ら（2018）は、施設実習を選択し実習を行った学生たちの学びの内容は、保育士としての専門性に通じる知識や技術に関する学びだけでなく、子どもや利用者との関わりを通して、子どもの最善の利益や職業倫理等といった保育士の専門性の根幹ともなる学びを得ていることが明らかにしている。さらにこれらの学びを保育実習Ⅰから保育実習Ⅲの実習までのプロセスの中で深めていることを指摘している。また大和田ら（2018）が保育実習Ⅲでは学生が自らの将来の方向性を考えて実習していること、また、学生の希望する実習施設への配属が、高い実習意欲の一因であることを示唆している。古野ら（2016）（2017）は、保育実習Ⅲにおいては子どもの心的内面をとらえる力を向上させ、実習日誌に考察記述として表す記述力を身につけるための実習指導のあり方と効果について言及している。

こうした施設実習の特質はあるものの、先述の藤田（2023）は、保育士養成に必要な実習であるならば、どの施設種別の実習においても必要な学びや経験を得ることができるために、それぞれの目標と内容に沿った実習プログラムの開発が求められるとしている。しかしながら実習プログラムの作成は義務化されていないため、各実習施設の独自プログラムなど保育実習の内容に沿ったものになっているかわからないとも指摘している。例えば同じ福祉系の国家資格である社会福祉士は、実習の内容について具体的な規定は設けられていないことは同じであるが、実習指導者等の講習が設けられていたり、「ソーシャルワーク実習指導・実習のための教育ガイドライン」（一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟）にソーシャルワーク実習の教育に含むべき事項として合計10項目が掲げられていたりしている。

上記のように、施設実習は学生や養成校のモチベーションの問題、施設や種別による実習内容の差異など、実習の実施状況に課題があるといえる。さらには、施設実習を２回行う場合においても、その実習内容に違いがないことなども課題となっている。 近年、実習を行った経験から、卒業後に児童福祉施設や障害者支援施設に就職を希望する学生も増えており、施設保育士としての専門性を学べる保育実習プログラムが必要であると考えている。 以上のような問題意識から、保育士養成課程の施設実習における現状を明らかにし、保育実習ⅠからⅢへとつながる段階的実習プログラムの作成を企図することが研究の目的である。

２　研究の方法

（１）調査の目的と概要

本調査の目的は、児童福祉施設で行われている保育実習Ⅰ・Ⅲの実践内容を明らかにすることである。保育実習Ⅰ・Ⅲの教授内容において「実習の内容」という用語が使用されているため、実習生が実際に行った実習は「実践内容」という表記にし、区別を図っている。

本調査は、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設、障害児入所施設の保育実習担当者を対象に質問紙調査を行った（表１）。母子生活支援施設は、全国母子生活支援施設協議会を通じて関東ブロックに所属する施設に調査を依頼し、GoogleFormで回答を行った。なお、母子生活支援施設の調査対象が表１に示す11都県であるのは、調査依頼を行った全国母子生活支援施設協議会関東ブロックの所属が11都県であり、母子生活支援施設以外の３種別の施設と同様の都県を抽出して調査を行うことができなかったためである。

回答数は159件（回収率40.8％）である。

表１　調査の概要

児童養護施設 乳児院 障害児入所施設	茨城県・栃木県・群馬県、埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県 調査時期：2022年10月14日～11月30日
母子生活支援施設	上記７都県に下記４県を加えた11都県 山梨県・長野県・新潟県・静岡県 調査時期：2022年11月25日～12月16日

調査項目の構成は、「回答者の属性・施設について」「保育実習の実施状況」および「保育実習Ⅰ・Ⅲにおける具体的な実践内容」とした。この具体的な実践内容は、「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準」（子発0427第３号）の別紙３「教科目教授内容」別添１において示されている保育実習Ⅰ・Ⅲの教授内容で示される実習の内容（表２）を、実際に実習施設でどのような方法で実践されているかを考え設定した。なお、この具体的な実践方法については、ミニマムスタンダード（全国保育士養成協議会が示した保育実習に関する標準的事項）を参考にした。

表２　保育実習Ⅰ・Ⅲの教授内容

＜教科目名＞ 保育実習Ⅰ（実習・４単位：保育所実習２単位・施設実習２単位） ＜目標＞ １．保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ２．観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ３．既習の教科目の内容を踏まえ、子どもの保育および保護者への支援について総合的に理解する。 ４．保育の計画・観察・記録および自己評価等について具体的に理解する。 ５．保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。	＜教科目名＞ 保育実習Ⅲ（実習・２単位：保育所以外の施設実習） ＜目標＞ １．既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して、理解する。 ２．家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得する。 ３．保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ４．実習における自己の課題を理解する。
＜児童福祉施設等（保育所以外）における実習の内容＞ １．児童福祉施設等の役割の機能 （１）施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり （２）施設の役割と機能 ２．子どもの理解 （１）子どもの観察とその記録 （２）個々の状況に応じた援助や関わり ３．施設における子どもの生活の環境 （１）計画に基づく活動や援助 （２）子どもの心身の状態に応じた生活と対応 （３）子どもの活動と環境 （４）健康管理、安全対策の理解 ４．計画と記録 （１）支援計画の理解と活用 （２）記録に基づく省察・自己評価 ５．専門職としての保育士の役割と倫理 （１）保育士の業務内容 （２）職員間の役割分担や連携 （３）保育士の役割と職業倫理	＜内容＞ １．児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能 ２．施設における支援の実際 （１）受容し、共感する態度 （２）個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 （３）個別支援計画の作成と実践 （４）子ども（利用者）の家族への支援と対応 （５）各施設における多様な専門職との連携・協働 （６）地域社会との連携・協働 ３．保育士の多様な業務と職業倫理 ４．保育士としての自己課題の明確化

厚生労働省「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」別紙３「教科目の教授内容」別添１を元に作成

（２）倫理的配慮

本調査では、調査依頼書に研究目的と倫理的配慮（研究への参加への自由意思の尊重、無記名であること、プライバシーの保護、個人が特定されない形での分析と公表、データの管理方法）を明記した。調査票の返送および回答をもって承諾いただいたこととした。

３　研究の結果

（１）施設・回答者

回答があった施設の施設種別は、乳児院が22施設、児童養護施設が73施設、母子生活支援施設が23施設、障害児入所施設が40施設、自立援助ホームが１施設であった。回答施設159施設うち保育実習を受け入れている施設は154施設であった。回答者の職場における勤続年数は平均14年、実習指導担当年数は平均７年である。

なお、本論では保育実習を受け入れている154施設（乳児院21施設、児童養護施設、73施設、母子生活支援施設21施設、障害児入所施設39施設）からの回答をもとに報告する。

（２）保育実習の実施状況

各施設の実習の受け入れの状況は、保育実習のみ受け入れている施設は23施設（14.9％）で、保育実習以外の受け入れでは社会福祉士の相談援助実習が87施設（56.5％）と多かった。様々な資格の実習を受け入れているなかで、資格ごとに実習担当者が異なる施設は82施設（53.2％）、資格ごとに実習内容が異なる施設は86施設（55.8％）であった。障害児入所施設では、医師や看護師、介護福祉士や介護職員初任者研修等の実習も受け入れており実習の受入れが多様であることがわかった。資格による実習担当者の違いや実習内容の違いについては、施設種別による違いはみられなかった。

厚生労働省が示す保育実習の「目標」と「内容」に照らして実習内容が

組まれている施設は115施設（74.7%）であった。施設独自に保育実習の実習プログラムを設けている施設は57施設（37.0%）で、そのうち、保育実習ⅠとⅢとで異なる実習プログラムがある施設は５施設（8.8%）と少なく、保育実習Ⅰ・Ⅲの実習プログラムが分かれていない施設が45施設（78.9%）であった。

表３　保育実習の受け入れの状況　（%）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
資格ごとに実習担当者が異なる	82（53.2）	12（57.1）	33（45.2）	12（57.1）	25（64.1）
資格ごとの実習内容の違う	86（55.8）	10（47.6）	42（57.5）	11（52.4）	23（59.0）
実習受入マニュアルがある	129（83.8）	18（85.7）	63（86.3）	18（85.7）	30（76.9）
実習内容が厚生労働省の「目標」「内容」に照らして設定されている	115（74.7）	16（76.2）	53（72.6）	14（66.7）	32（82.1）
保育実習独自の実習プログラムがある	57（37.0）	11（52.4）	23（31.5）	11（52.4）	12（30.8）

（３）保育実習Ⅰの実習内容

①児童福祉施設等の役割と機能

児童福祉施設等の役割と機能については、施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりおよび施設の役割と機能が設定されている。

施設における子どもの生活と保育士の援助や関わりについては、「子どもと生活をともにする」（84.4%）や「職員の支援を観察する」（89.6%）「支援に参加する」（87.7%）が実践されている。いずれの施設種別においても実施率が高い。

施設の役割と機能については、「オリエンテーションで説明を受ける」（93.5%）「職員の支援の観察する」（91.6%）を実践する施設は多いが、「地域における子育て支援事業についての説明を受ける」（37.7%）「リービングケアについての説明を受ける」（39.0%）の実践が少ない。特に、

障害児入所施設での実習では、地域における子育て支援事業、リービングケアやアフターケアについての説明を受ける機会が少ないことがわかった。

表４　保育実習Ⅰの実習内容－児童福祉施設等の役割と機能－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
施設における子どもの生活と保育士の援助や関わり					
子どもと生活を共にする	130（84.4）	19（90.5）	70（95.9）	14（66.7）	27（69.2）
職員の支援を観察する	138（89.6）	19（90.5）	66（90.4）	19（90.5）	34（87.2）
支援に参加する	135（87.7）	18（85.7）	63（86.3）	17（81.0）	37（94.9）
その他	3（1.9）	1（4.8）	2（2.7）	0（0.0）	0（0.0）
施設の役割と機能					
オリエンテーションで説明を受ける	144（93.5）	20（95.2）	68（93.2）	21（100.0）	35（89.7）
子どもと生活を共にする	127（82.5）	17（81.0）	66（90.4）	16（76.2）	28（71.8）
職員の支援を観察する	141（91.6）	19（90.5）	67（91.8）	20（95.2）	35（89.7）
支援に参加する	127（82.5）	13（61.9）	62（84.9）	16（76.2）	36（92.3）
施設の行事に参加する	130（84.4）	17（81.0）	62（84.9）	20（95.2）	31（79.5）
地域における子育て支援事業についての説明を受ける	58（37.7）	11（52.4）	28（38.4）	13（61.9）	6（15.4）
リービングケアについて説明を受ける	60（39.0）	4（19.0）	39（53.4）	11（52.4）	6（15.4）
アフターケアについて説明を受ける	78（50.6）	12（57.1）	45（61.6）	15（71.4）	6（15.4）
その他	8（5.2）	3（14.3）	5（6.8）	0（0.0）	0（0.0）

②子どもの理解

子どもの理解については、子どもの観察とその記録および個々の状態に応じた援助や関わりが実習内容として設定されている。

具体的な実践方法として、「関わりを通して子どもの理解を深める」（96.1％）「職員の支援を観察する」（92.9％）「支援に参加する」（85.1％）「子どもと生活を共にする」（81.8％）は、全種別施設で多かった。しかし、自立支援計画に関する実践内容（「自立支援計画を閲覧する」（44.8％）

「自立支援計画に基づいた支援を試行する」（22.7％））を取り組む施設が少なく、乳児院においては特に少なかった。また、「ケース会議に参加する」については、７割の母子生活支援施設が実施している一方で、乳児院では１施設（4.8％）と少なかった。

表５　保育実習Ⅰの実習内容－子どもの理解－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
関わりを通して子どもの理解を深める	148（96.1）	19（90.5）	72（98.6）	21（100.0）	36（92.3）
子どもと生活を共にする	126（81.8）	18（85.7）	66（90.4）	16（76.2）	26（66.7）
職員の支援を観察する	143（92.9）	20（95.2）	70（95.9）	20（95.2）	33（84.6）
支援に参加する	131（85.1）	15（71.4）	65（89.0）	15（71.4）	36（92.3）
自立支援計画を閲覧する	69（44.8）	4（19.0）	30（41.1）	14（66.7）	21（53.8）
自立支援計画に基づいた支援を試行する	35（22.7）	1（4.8）	19（26.0）	4（19.0）	11（28.2）
ケース会議に参加する	52（33.8）	1（4.8）	29（39.7）	15（71.4）	7（17.9）
記録を通してふり返る	95（61.7）	9（42.9）	50（68.5）	14（66.7）	22（56.4）
その他	8（5.2）	0（0.0）	6（8.2）	1（4.8）	1（2.6）

③施設における子どもの生活と環境

施設における子どもの生活と環境については、計画に基づく活動や援助、子どもの心身の状態に応じた生活対応、子どもの活動と環境および健康管理、安全対策の理解が設定されている。

計画に基づく活動や援助については、全施設種別で「自立支援計画に関する説明を受ける」（64.9％）は行われているが、実際に「自立支援計画を閲覧する」（47.4％）「自立支援計画に基づいた支援を行う」（31.2％）を実践する施設は少ない。

子どもの心身の状態に応じた生活と対応については、「関わりを通して子どもの理解を深める」（93.5％）や「子どもと生活を共にする」（80.5％）「職員の支援を観察する」（92.9％）「支援に参加する」（81.8％）は、いず

れの施設種別も実施率は８～９割と高かった。一方、「施設長や心理療法担当職員および家庭支援専門相談員からの説明を受ける（以下、専門職からの説明を受ける）」は、障害児入所施設では実施率が15.4％と低いことがわかった。

子どもの活動と環境については、「生活環境を整える」（83.8％）「子どもの活動に参加する（89.6％）」および「季節の行事を体験する」（82.5％）という実践はいずれも８割を超えていたが、「施設のクラブ活動に参加する」は16.9％と少なかった。

健康管理、安全対策の理解については、「申し送りや会議に参加する」（73.4％）や「感染症対策など具体的な取り組みについて説明を受ける（以下、感染症対策の説明を受ける）」（63.0％）が多く、「宿直業務を体験する」（30.5％）「調理業務を体験する」（32.5％）を実践する施設は少ない。特に、「宿直業務を体験する」では乳児院が３施設（14.3％）と少なく、「調理業務に参加する」では乳児院が３施設（14.3％）、障害児入所施設２施設（5.1％）と少ないことがわかった。

表６　保育実習Ⅰの実習内容－施設における子どもの生活の環境－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
計画に基づく活動や援助					
自立支援計画に関する説明を受ける	100（64.9）	11（52.4）	45（61.6）	18（85.7）	26（66.7）
自立支援計画の閲覧する	73（47.4）	5（23.8）	31（42.5）	13（61.9）	24（61.5）
自立支援計画に基づいた支援を行う	48（31.2）	1（4.8）	23（31.5）	5（23.8）	19（48.7）
その他	10（6.5）	3（14.3）	3（4.1）	2（9.5）	2（5.1）

子どもの心身の状態に応じた生活と対応					
関わりを通して子どもの理解を深める	144 (93.5)	19 (90.5)	70 (95.9)	20 (95.2)	35 (89.7)
子どもと生活を共にする	124 (80.5)	16 (76.2)	69 (94.5)	12 (57.1)	27 (69.2)
職員の支援を観察する	143 (92.9)	19 (90.5)	68 (93.2)	20 (95.2)	36 (92.3)
支援に参加する	126 (81.8)	16 (76.2)	60 (82.2)	15 (71.4)	35 (89.7)
施設長や心理療法担当職員および家庭支援専門相談員からの説明を受ける	75 (48.7)	12 (57.1)	44 (60.3)	13 (61.9)	6 (15.4)
その他	4 (2.6)	0 (0.0)	2 (2.7)	0 (0.0)	2 (5.1)
子どもの活動と環境					
生活環境を整える	129 (83.8)	17 (81.0)	69 (94.5)	14 (66.7)	29 (74.4)
子どもの活動に参加する	138 (89.6)	20 (95.2)	61 (83.6)	21 (100.0)	36 (92.3)
季節の行事を体験する	127 (82.5)	17 (81.0)	60 (82.2)	21 (100.0)	29 (74.4)
施設や地域の行事に参加する	119 (77.3)	15 (71.4)	61 (83.6)	19 (90.5)	24 (61.5)
施設のクラブ活動に参加する	26 (16.9)	0 (0.0)	16 (21.9)	2 (9.5)	8 (20.5)
その他	1 (0.6)	0 (0.0)	1 (1.4)	0 (0.0)	0 (0.0)
健康管理、安全対策の理解					
申し送りや会議に参加する	113 (73.4)	12 (57.1)	58 (79.5)	17 (81.0)	26 (66.7)
宿直業務を体験する	47 (30.5)	3 (14.3)	27 (37.0)	7 (33.3)	10 (25.6)
調理業務を体験する	50 (32.5)	3 (14.3)	38 (52.1)	7 (33.3)	2 (5.1)
服薬管理などについて説明を受ける	92 (59.7)	11 (52.4)	49 (67.1)	12 (57.1)	20 (51.3)
医療機関との連携について説明を受ける	85 (55.2)	14 (66.7)	37 (50.7)	15 (71.4)	19 (48.7)
感染症対策など具体的な取り組みについての説明を受ける	97 (63.0)	12 (57.1)	39 (53.4)	16 (76.2)	30 (76.9)
その他	8 (5.2)	5 (23.8)	1 (1.4)	1 (4.8)	1 (2.6)

④計画と記録

計画と記録については、支援計画の理解と活用と記録に基づく省察・自己評価が設定されている。

支援計画の理解と活用は、「自立支援計画に関する説明を受ける」は全種別の施設で66.9％が実施しているが、乳児院では「自立支援計画の閲覧する」を実践する施設は６施設（28.6％）と実施率が低かった。さらに、「自立支援計画に基づいた支援を行う」は、全施設種別で30.5％と少なく、特に乳児院では１施設（4.8％）のみであった。

記録に基づく省察・自己評価については、「実習全体のふり返り（反省

会）に参加する」（90.3％）ことで理解を深める施設が多かった。「日々の反省会」を行う施設は75.3％、「中間反省会」および「レポートを書く」はともに49.4％で、実習全体の反省会と比較すると実施率は低い。

表７　保育実習Ⅰの実習内容－計画と記録－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
支援計画の理解と活用					
自立支援計画に関する説明を受ける	103（66.9）	10（47.6）	47（64.4）	18（85.7）	28（71.8）
自立支援計画の閲覧する	77（50.0）	6（28.6）	34（46.6）	13（61.9）	24（61.5）
自立支援計画に基づいた支援を行う	47（30.5）	1（4.8）	23（31.5）	6（28.6）	17（43.6）
その他	13（8.4）	5（23.8）	6（8.2）	0（0.0）	2（5.1）
記録に基づく省察・自己評価					
日々の反省会に参加する	116（75.3）	14（66.7）	59（80.8）	20（95.2）	23（59.0）
中間反省会に参加する	76（49.4）	5（23.8）	42（57.5）	13（61.9）	16（41.0）
実習全体のふり返り（反省会）に参加する	139（90.3）	19（90.5）	67（91.8）	20（95.2）	33（84.6）
レポートを書く	76（49.4）	9（42.9）	37（50.7）	12（57.1）	18（46.2）
その他	3（1.9）	0（0.0）	2（2.7）	1（4.8）	0（0.0）

⑤専門職としての保育士の役割と倫理

専門職としての保育士の役割と倫理では、保育士の業務内容、職員間の役割分担や連携および保育士の役割と職業倫理が設定されている。

なお、本項目については、母子生活支援施設を対象とした調査（GoogleForm）から質問が漏れていたため、乳児院、児童養護施設、障害児入所施設のみの回答とする。

保育士の業務内容については、「部分・責任実習を行う」施設が38.3％と少ないが、乳児院においては部分・責任実習を行う施設が約６割となっており比較的多いことがわかった。

職員間の役割分担や連携への理解については、「職員の支援を観察する」

（96.2％）や「支援に参加する」（82.7％）が多いが、「職員会議・ケース会議に参加」（38.3％）は実施率が低い。

保育士の役割と職業倫理については、オリエンテーションや反省会で説明する施設が多く、「施設におけるソーシャルワーカーの役割について説明を受ける」（42.1％）や「他機関との会議等に同席する」（11.3％）は少なかった。

表８　保育実習Ⅰの実習内容－専門職としての役割と倫理－

	全体	乳児院	児童養護施設	障害児入所施設
保育士の業務内容				
オリエンテーションで説明を受ける	113（85.0％）	19（90.5％）	63（86.3％）	31（79.5％）
職員の支援を観察する	130（97.7％）	20（95.2％）	73（100.0％）	37（94.9％）
支援に参加する	117（88.0％）	16（76.2％）	66（90.4％）	35（89.7％）
保育士から説明を受ける	110（82.7％）	20（95.2％）	58（79.5％）	32（82.1％）
部分・責任実習を行う	51（38.3％）	12（57.1％）	24（32.9％）	15（38.5％）
その他	1（0.8％）	0（0.0％）	1（1.4％）	0（0.0％）
職員間の役割分担や連携への理解				
職員の支援を観察する	128（96.2％）	21（100.0％）	72（98.6％）	35（89.7％）
支援に参加する	110（82.7％）	13（61.9％）	64（87.7％）	33（84.6％）
日々の引き継ぎに参加する	89（66.9％）	14（66.7％）	50（68.5％）	25（64.1％）
職員会議・ケース会議に参加する	51（38.3％）	1（4.8％）	37（50.7％）	13（33.3％）
保育士以外の専門職からの説明を受ける	80（60.2％）	16（76.2％）	44（60.3％）	20（51.3％）
その他	3（2.3％）	1（4.8％）	2（2.7％）	0（0.0％）
保育士の役割と職業倫理				
オリエンテーションで説明を受ける	117（88.0％）	20（95.2％）	66（90.4％）	31（79.5％）
施設長や担当者からの説明を受ける	94（70.7％）	17（81.0％）	54（74.0％）	23（59.0％）
実習全体のふり返り（反省会）に参加する	118（88.7％）	17（81.0％）	68（93.2％）	33（84.6％）
施設におけるソーシャルワーカーの役割について説明を受ける	56（42.1％）	11（52.4％）	36（49.3％）	9（23.1％）
他機関との会議等に同席する	15（11.3％）	0（0.0％）	9（12.3％）	6（15.4％）
その他	3（2.3％）	2（9.5％）	1（1.4％）	0（0.0％）

（４）保育実習Ⅲの実習内容

①児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能

児童福祉施設等の役割の機能については、保育実習Ⅰ（施設）の実習内容にも設定されているため、この項目については保育実習Ⅰ（施設）と同様の実践内容と考え、選択肢は「保育実習Ⅰ（施設）と同じ内容のプログラムを実践している」と「保育実習Ⅰ（施設）と異なる内容」との２択にし、後者の場合、具体的な実習内容について回答（自由記述）を求めた。

保育実習Ⅲにおいて、保育実習Ⅰ（施設）と同じ実習内容を行っている施設は全種別の施設で83.9％であった。保育実習Ⅰと異なる具体的内容（自由記述）には、「ケース記録を読む」、「個別支援計画の策定」、「専門職の話をきく」等があった。

表９　保育実習Ⅲ－児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
保育実習Ⅰ（施設）と同じ内容のプログラム	120（83.9）	17（81.0）	55（75.3）	19（90.5）	29（74.4）
保育実習Ⅰ（施設）と異なる内容	9（5.8）	2（9.5）	5（6.8）	1（4.8）	1（2.6）

②施設における支援の実際

施設における支援の実際では、受容し、共感する態度、個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解、個別の支援計画の作成と実践、子どもの家族への支援と対応、各施設における多様な専門職との連携・協働および地域社会との連携が設定されている。

受容し、共感する態度については、「職員の支援を観察する」が全体で89.6％と最も多く、次いで、「支援に参加する」（83.1％）となっている。「子どもとの面談等に同席する」（13.6％）を実践する施設は少ない。

個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解について

は、「職員の支援を観察する」（86.4％）「支援に参加する」（80.5％）「子どもと生活を共にする」（79.2％）が多かった。「ケース記録を閲覧する」（39.0％）や「子どもとの面談等に同席」（13.6％）は少なかった。

個別の支援計画の作成と実践に関しては、「自立支援計画に関する説明を受ける」（65.6％）が多いが、実際に「自立支援計画を作成する」（7.8％）する施設は少ない。

子どもの家族への支援と対応では、「オリエンテーションで説明を受ける」（76.0％）施設が多く、次いで「専門職からの説明を受ける」（46.1％）が多くなっている。一方、実際に「家族との面談等に同席する」（4.5％）はほとんど実践されていないが、母子生活支援施設では23.8％と他の施設に比べると多い。

各施設における多様な専門職との連携・協働については、「職員の支援を観察する」（89.0％）や「支援に参加する」（69.5％）という具体的方法を実践する施設が多い。「日々の引き継ぎに参加する」は59.1％、「職員会議・ケース会議に参加」は39.6％となっているが、施設種別によって実施状況に差があり、母子生活支援施設では約７割の施設で実施されているが、乳児院では4.8％に少ない。また、母子生活支援施設では「保育士以外の専門職からの説明を受ける」（90.5％）が他の施設種別と比較し多く実践されている。

地域社会との連携については、「職員の支援を観察する」（68.8％）は全体で約７割の施設で実践されているが、「学校等での活動や行事に参加する」（31.8％）や「他機関との会議等に同席する」（13.0％）を実践する施設は少ない。ただ、母子生活支援施設では、約４割の施設で「他機関等の会議等に同席する」が実施されており、他の種別の施設と比較すると多いことがわかる。

表10　保育実習Ⅲ－施設における支援の実際－　（%）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
受容し、共感する態度					
子どもと生活を共にする	122（79.2）	16（76.2）	67（91.8）	13（61.9）	26（66.7）
支援を参加する	128（83.1）	15（71.4）	63（86.3）	15（71.4）	35（89.7）
職員の支援を観察する	138（89.6）	19（90.5）	64（87.7）	20（95.2）	35（89.7）
子どもとの面談等に同席する	21（13.6）	1（4.8）	9（12.3）	7（33.3）	4（10.3）
その他	2（1.3）	0（0.0）	2（2.7）	0（0.0）	0（0.0）
個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解					
子どもと生活を共にする	122（79.2）	15（71.4）	67（91.8）	15（71.4）	25（64.1）
職員の支援を観察する	133（86.4）	16（76.2）	64（87.7）	20（95.2）	33（84.6）
支援に参加する	124（80.5）	15（71.4）	61（83.6）	17（81.0）	31（79.5）
子どもとの面談等に同席する	21（13.6）	1（4.8）	9（12.3）	7（33.3）	4（10.3）
児童のケース記録を閲覧する	60（39.0）	3（14.3）	24（32.9）	13（61.9）	20（51.3）
その他	4（2.6）	1（4.8）	3（4.1）	0（0.0）	0（0.0）
個別の支援計画の作成と実践					
自立支援計画に関する説明を受ける	101（65.6）	10（47.6）	48（65.8）	17（81.0）	26（66.7）
自立支援計画を閲覧する	75（48.7）	6（28.6）	31（42.5）	12（57.1）	26（66.7）
自立支援計画を作成する	12（7.8）	2（9.5）	6（8.2）	3（14.3）	1（2.6）
自立支援計画に基づいた支援を行う	41（26.6）	3（14.3）	20（27.4）	5（23.8）	13（33.3）
その他	9（5.8）	4（19.0）	2（2.7）	0（0.0）	3（7.7）
子どもの家族への支援と対応					
オリエンテーションで説明を受ける	117（76.0）	16（76.2）	51（69.9）	19（90.5）	31（79.5）
施設長、心理療法担当職員および家庭支援専門相談員からの説明を受ける	71（46.1）	12（57.1）	39（53.4）	14（66.7）	6（15.4）
家族との面談等に同席する	7（4.5）	0（0.0）	1（1.4）	5（23.8）	1（2.6）
その他	9（5.8）	3（14.3）	4（5.5）	1（4.8）	1（2.6）
各施設における多様な専門職との連携・協働					
職員の支援を観察する	137（89.0）	20（95.2）	64（87.7）	20（95.2）	33（84.6）
支援に参加する	107（69.5）	10（47.6）	53（72.6）	15（71.4）	29（74.4）
日々の引き継ぎに参加する	91（59.1）	11（52.4）	43（58.9）	15（71.4）	22（56.4）
職員会議・ケース会議に参加する	61（39.6）	1（4.8）	36（49.3）	15（71.4）	9（23.1）
保育士以外の専門職からの説明を受ける	92（59.7）	14（66.7）	42（57.5）	19（90.5）	17（43.6）
その他	5（3.2）	0（0.0）	1（1.4）	2（9.5）	2（5.1）

地域社会との連携・協働					
支援に参加する	85（55.2）	6（28.6）	48（65.8）	11（52.4）	20（51.3）
職員の支援を観察する	106（68.8）	13（61.9）	50（68.5）	19（90.5）	24（61.5）
地域の行事に参加する	66（42.9）	6（28.6）	42（57.5）	9（42.9）	9（23.1）
学校等での活動や行事に参加する	49（31.8）	1（4.8）	36（49.3）	5（23.8）	7（17.9）
他機関との会議等に同席する	20（13.0）	0（0.0）	8（11.0）	8（38.1）	4（10.3）
その他	13（8.4）	4（19.0）	5（6.8）	1（4.8）	3（7.7）

③保育士の多様な業務と職業倫理

保育士の多様な業務と職業倫理については、「オリエンテーションで説明を受ける」（81.8％）と最も多く、次いで「実習全体のふり返り（反省会）に参加する」（79.9％）が多くなっている。「部分・責任実習を行う」「施設におけるソーシャルワーカーの役割について説明を受ける」は、全体で約４割の施設で実施している。「他機関との会議等に同席する」を実施する施設は少ない。

いずれの実習内容についても、他の施設と比較すると母子生活支援施設での実施が多い。

表11　保育実習Ⅲ－保育士の多様な業務と職業倫理－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
オリエンテーションで説明を受ける	126（81.8）	18（85.7）	61（83.6）	18（85.7）	29（74.4）
部分・責任実習の行う	62（40.3）	13（61.9）	21（28.8）	11（52.4）	17（43.6）
施設長や担当者からの説明を受ける	102（66.2）	17（81.0）	45（61.6）	19（90.5）	21（53.8）
実習全体のふり返り（反省会）に参加する	123（79.9）	17（81.0）	57（78.1）	20（95.2）	29（74.4）
施設におけるソーシャルワーカーの役割について説明を受ける	68（44.2）	9（42.9）	34（46.6）	15（71.4）	10（25.6）
他機関との会議等に同席する	15（9.7）	0（0.0）	7（9.6）	5（23.8）	3（7.7）
その他	4（2.6）	1（4.8）	1（1.4）	1（4.8）	1（2.6）

④保育士としての自己課題の明確化

保育士としての自己課題の明確化については、多くの施設で「実習全体のふり返り（反省会）に参加する」（83.1％）が実践されている。反省会としては、日々の反省会を実施する施設は74.0％、中間反省会は44.8％となっている。また、約４割の施設では「レポートを書く」ことを実践しており、これらの取り組みから自己課題を明確にしていることがわかった。

表12　保育実習Ⅲ－保育士としての自己課題の明確化－　（％）

	全体	乳児院	児童養護施設	母子生活支援施設	障害児入所施設
実習全体のふり返り	128（83.1）	17（81.0）	61（83.6）	18（85.7）	32（82.1）
日々の反省会に参加する	114（74.0）	15（71.4）	55（75.3）	20（95.2）	24（61.5）
中間反省会に参加する	69（44.8）	3（14.3）	38（52.1）	14（66.7）	14（35.9）
実習全体のふり返り（反省会）に参加する	128（83.1）	17（81.0）	62（84.9）	19（90.5）	30（76.9）
レポートを書く	75（48.7）	10（47.6）	35（47.9）	11（52.4）	19（48.7）
その他	2（1.3）	0（0.0）	1（1.4）	1（4.8）	0（0.0）

4　考察

保育実習の中でも施設実習は、保育所を除いた児童福祉施設や児童相談所一時保護施設に加えて、成人を対象とした障害者支援施設や指定障害福祉サービス事業所等でも実習が行われている。このように施設実習は様々な種別での実習が行われているため、厚生労働省が「指定保育士養成施設の指定および運営の基準」の別紙３「教科目教授内容」で示す実習内容をすべての施設種別において同様の方法で実践することは難しい。実践内容を統一することの難しさとして、施設の役割、機能や対象者に違いがあることがその要因として考えられる。施設実習を対象としている施設は、利用児者の年齢、抱える課題等も多様であるため、それぞれの施設で行われている支援も一様ではないからである。この点については、４種別の施設

を対象として実施した本調査の結果からも明らかになった。

利用児の年齢の違いによる実践内容の差としては、特に乳児院での実践内容にみることができた。例えば、「子どもとの面談等に同席する」や「学校等での活動や行事に参加する」などは子どもの年齢や生活状況により現実的に実践することができない。また、子どもの生活や成長発達に大きくかかわっている食については、実践として「調理業務を体験する」ことができるのは児童養護施設が多い。母子生活支援施設の場合、世帯で入所し母親と生活しているため、子どもの食事を準備するのは母親の役割であり、保育士（施設職員）が携わることは少ない。また障害児入所施設では調理室で調理することが多く、子どもを支援する保育士（施設職員）が調理することは少ないため、実習生が調理業務を体験することも少ないだろう。このように各施設に入所する子どもの状況によって支援内容が異なり、必然的に保育実習における実践内容が異なることにつながることがわかった。

４種別の施設において共通して実践されているのは、「子どもと生活を共にする」「支援を参加する」「職員の支援を観察する」「子どもの活動に参加する」であった。これらは施設実習に限らず、保育所での実習においても実践されている方法だということができる。

一方、４種別の施設で共通して実践が少ないものとしては、「自立支援計画に基づいた支援を行う」「子どもとの面談等に同席する」や「他機関との会議等に同席する」であった。さらに、「自立支援計画を閲覧する」「職員会議・ケース会議に参加する」などは、施設種別によって実践している割合に差があった。このことは厚生労働省が示す保育実習の目標と実習内容を、それぞれの施設がどのようにとらえているかも関係するのではないかと考える。本調査において、厚生労働省が示す保育実習の「目標」と「内容」に照らして実習内容を設定していると回答した施設は７割以上であったが、施設種別によって実践内容が異なることからもこの点は施設実習の課題であろう。また、施設が保育士の役割として何を求めているのか、つ

まり保育士の専門性のとらえ方によっても異なるのではないだろうか。

保育実習Ⅰと保育実習Ⅲの違いについて、両者に共通するいくつかの実践内容から比較する。「自立支援計画に関する説明を受ける」は保育実習Ⅰでは64.9％、保育実習Ⅲでは65.6％、「自立支援計画を閲覧する」は保育実習Ⅰでは47.4％、保育実習Ⅲでは48.7％となっており、保育実習Ⅰと保育実習Ⅲとに大きな違いはなかった。また、「部分・責任実習を行う」は、保育実習Ⅰでは38.3％、保育実習Ⅲでは40.3％が実施しており、「他機関との会議等に同席する」は保育実習では11.3％、保育実習Ⅲでは13.0％が実施しており、これらの実践内容にも違いはない。このように、本調査においては一回目と二回目の施設実習の実践内容に明確な違いを見出すことができなかったからも、施設実習における実践内容の違いは、実習の段階によるものではなく施設種別の違いによるものであると考察することができる。

5　おわりに

本研究では、実習プログラム作成に当たっての実際の実習内容の把握と実習プログラム作成の現状、また実習プログラムに対する意識について調査を通して明らかにすることができた。

保育実習Ⅰの保育所実習と保育実習Ⅱについては、「保育所」という同一施設での実習であるため段階的な実習プログラムとなっていることは明らかである。例えば、保育実習Ⅰでは部分実習を行い、保育実習Ⅱでは責任実習を行う、といった具合に非常に明確にステップアップが図られている。

一方、施設実習ではこの段階的な実習プログラムの設定が非常に難しい。その理由として、施設実習では実習先の種別が多数あり、保育実習Ⅰと保育実習Ⅲで同一種別の実習ができない場合が多いことがあげられるだろう。また先述のように実習種別による実習内容の違いもある。しかしながらジェネリックソーシャルワークにおける部分については段階的な実習を設定することも可能ではないかと考えられる。

今回の調査において、例えばアフターケアに関する実習項目は、社会的養護に関連する施設であれば共通事項であり、たとえ施設種別が異なっていてもその目的や意味等は同じである。厚生労働省の提示した実習内容を網羅するためにも、今後は調査の中で明らかになった実習で実施できていない項目についてどのように実習プログラムとして盛り込めるかということ、また保育実習Ⅰから保育実習Ⅲに向けての段階的な実習プログラムをどのように設定できるかについて今後も継続して検討していきたい。

文献

大村海太・髙玉和子（2020）「保育実習Ⅰ（施設）を行う学生に関する一考察」『教育文化研究』８

松藤光生・中村恭子（2016）「施設実習における実習施設種による学びの差異」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』48

村田恵子（2019）「2018年度保育実習Ⅰ（施設）実習指導の成果と課題」『就実教育実践研究』12

角野雅彦・関山均・西谷憲明・福島豪・上谷裕子・古村溝（2021）「2020（令和２）年度保育実習Ⅱ及び保育実習Ⅲ学内実習の取り組みについて」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』40（１）

堺恵・広川義哲（2022）「施設実習前に学生が育むべき能力の探究－仮定法的内省を促し得る事例の提示を通して－」『龍谷教職ジャーナル』10

今井大二郎（2023）「短期大学における施設保育士養成に関する一考察～保育実習指導Ⅲ講義内容の検討～」『駒沢女子短期大学研究紀要』56

藤田哲也・村田泰弘（2023）「保育実習Ⅰ（施設）及び保育実習Ⅲ（施設）の実習プログラムの作成に関する現状と課題－Ａ県内の社会的養護施設及び障害者支援施設を中心に」『岐阜聖徳学園大学教育実践科学研究センター紀要』22

小湊真衣・尾野明美・大海由佳・前徳明子（2022）「保育実習Ⅰ（施設）における目標設定と事前指導のあり方に関する考察」『帝京科学大学教育・教職研究』７（２）

大和田明見・関根美保子・鈴木春江（2014）「保育士養成課程における施設実習の意味と意識の変化」『帝京大学教育学部紀要』２

大和田明見・金森三枝（2018）「施設実習における保育士の専門性の獲得過程―保育実習Ⅲ（施設）を選択した学生の学びのプロセスに着目して―」『帝京大学教育学部紀要』６

古野誠生・飯塚恭一郎（2017）「保育実習Ⅲ（施設）実習指導の効果に関する一考察（２）エピソード記述の学習後の観察視点の変化に着目して」『純真紀要』57

古野誠生・飯塚恭一郎（2016）「保育実習Ⅲ（施設）実習指導の効果に関する一考察」『純真紀要』56

飯尾雅昭・阪野学(2017)「実践の場で学ぶ科目：保育実習(施設)」寺田恭子・榊原志保・

高橋一夫編『保育・教職実践演習：わたしを見つめ、求められる保育者になるために』ミネルヴァ書房
杉野寿子（2018）「保育士養成課程における施設実習の課題－実習後調査からの考察－」『福岡県立大学人間社会学部紀要』27（１）
圓入智仁（2007）「施設保育士養成カリキュラム開発に関する研究」『平成18年度総括研究報告書』厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
大嶋恭二（2009）「保育サービスの質に関する調査研究」『平成20年度総括研究報告書』厚生労働科学研究費補助金（政策科学推進研究事業）
廣井雄一（2020）「社会福祉施設での保育実習を通した学生の成果と課題」『國學院大學人間開発学研究』11
石山貴章・安部孝・田中誠（2010）「保育士養成機関における「施設実習」の現状と課題（２）：実習事後指導を通した「自己評価」と「気づき」に関する分析から」『紀要 visio：research reports』40
川島恵美・川本健太郎・藤之原綾・峰島里奈（2007）「生活施設実習過程における実習生のモチベーション変動及び影響を与える要因：児童養護施設実習を経験した実習生の記録から」『関西学院大学社会学部紀要』103
土谷由美子(2007)「保育実習に関する意欲と現状について：学生のアンケートを中心に」『中国学園紀要』 6